

「紀伊山地の^{れいじょう}霊場と^{さんけいみち}参詣道」観光連携共同宣言

三重県、奈良県、和歌山県は、「熊野三山」「高野山」「吉野・大峯」という三つの霊場と、そこに至る参詣道、そして自然と人の営みが長い時間をかけて形成した文化的景観を特徴とする世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を3県共通の宝として有し、それを核として広域観光誘客に取り組んできました。

紀伊半島は、多様な文化、山海の幸や温泉など自然の恵みにあふれた癒しと祈りの地であり、また古くからもてなしと寛容の心が根付いています。

コロナ禍で落ち込んだ観光入込客数については、新型コロナウイルス感染症の位置づけの変更もあり、人流の回復などが観光需要を喚起し、国内はもとより、インバウンドについても回復基調にあります。令和6年には「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年を迎え、令和7年に大阪・関西万博、令和8年にアジア競技大会、令和9年にワールドマスターズゲームズと、海外からも多くの人々が訪れるビッグイベントが立て続けに予定されています。これらをまたとない好機ととらえて邁進していくことが求められています。

私たち3県は、国内だけでなく、海外からの観光客もターゲットに据え、

- ・ **令和6年の世界遺産登録20周年に向けて大都市における共同イベントの実施など「紀伊山地の霊場と参詣道」の新たなファン・リピーターの獲得**
- ・ **令和7年の大阪・関西万博など絶好の機会を捉えた「紀伊山地の霊場と参詣道」へのインバウンド誘客の推進**
- ・ **「熊野古道」などへの来訪者が、紀伊半島の他のスポットも周遊する仕掛けづくりの推進**
- ・ **紀伊半島の多くの観光資源を活かした長期滞在の推進**

をねらいとして、連携した取組を一層強化し、全力で取り組んでいくことをここに宣言します。

令和5年7月5日

三重県知事 一見 勝之

奈良県知事 山下 真

和歌山県知事 岸本 周平